

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 三船病院デイケアは今・・・

デイケア主任 国宗 聖子

地域での精神保健福祉に関する様々な動きや発展の中、昭和56年より開設された当院デイケアは現在大きな岐路に立たされています。そこで今日デイケアが置かれている状況や役割について改めて考えるとともに、それぞれのスタッフのコメントを紹介したいと思います。

デイケアは外来通院されている方を対象に、精神科治療及びリハビリテーションの一環として、集団での活動(プログラム)を通じ、生活技能や対人交流技能を向上させることを目的としています。役割としては再発の防止、自信や心のゆとりの回復、仲間作り、生活リズムの改善、日中の活動もしくは居場所の提供といった様々な個別のニーズに対応し、安定した社会生活が送れるようサポートしていく場であると考えています。これらの目的や役割を担うには、リラックスできる雰囲気であることやメンバーの自己決定・自主性・人格を尊重しながら運営・活動していくことが大切です。加えて就労援助や家族へのアプローチも重要な役割の一つです。

当院デイケアの特徴は、病院付設型であること(参加時いつでも受診できる)、多職種(現在作業療法士1、看護師1、PSW2)による多角的なサポートが可能であること、男性メンバー・長期通所者の比率が高いこと、スポーツ系のプログラムが多いということ等が挙げられます。一日平均20名前後のメンバーが参加しており、下記のプログラムに沿って活動しています。最近では県下の精神保健福祉関係の施設が出演するソフトバレー大会に向けての練習に力を入れています。メンバー

はこれらのプログラムに楽しんで参加しながら協調性や主体性を養い、心身共に充実した生活を送ることを目標にしています。新しい課題としては、退院促進支援事業の対象者が新規に参加されているため、関係機関との連携と、院内では他部署、特に主治医・病棟・外来部門との連携をさらに密にしていく必要性を強く感じています。その為にはまずハード・ソフトの両面からより深く三船病院デイケアを知って頂くことから始めなくてはならないと考え、PR用パンフレットや業務マニュアルの作成に取り組んでいるところです。現在諸事情によりデイナイトケアは休止中ですが、今後条件が整えばメンバーのニーズに応じて再開することも検討しながら、それぞれの職種の専門性を活かしつつ、中身の充実を図るよう一層の努力をしていきたいと思っています。デイケアの在り方が問われている昨今、制度的な変化にも対応できるようにしておきたいものです。

今回が皆さんに「三船病院デイケア」を知っていただく良い機会となれば幸いです。外来、売店、各病棟に掲示してあるデイケア新聞も是非ご覧下さい。



		月	火	水	木	金
1週	AM	ウォーキング	ビリヤード	ドッジボール	風船バレー	茶道/卓球
	PM	第2クラブ活動	ソフトバレー	クラブ活動	ミーティング	バドミントン
2週	AM	ウォーキング	ストラックアウト/卓球	地理	ビリヤード	ビリヤード
	PM	第2クラブ活動	ソフトバレー	クラブ活動	キックベースボール	室内活動
3週	AM	ウォーキング	日本語	日本語	卓球	音楽鑑賞/ビリヤード
	PM	プログラム作成	バドミントン	サッカー	クラブ活動	テニス/ゲートボール
4週	AM	ウォーキング	空缶ボウリング/ウノ	ドッジボール	ミーティング	ハテナでガッテン
	PM	クリーンデー	ソフトバレー	第2クラブ活動	室内活動	ソフトボール

\* 月間プログラムの一例。毎月メンバーの話合いによってプログラム内容を決めています。

デイケア看護師 速水 可七子

デイケアで働き始めて約4ヶ月になりますが、以前実習したデイケアとは違い雰囲気明るく楽しいうえ、プログラムはスタッフだけでなくメンバーの話合いで決められているなど、驚くことが多くありました。プログラムの内容はスポーツ、ゲームなどレクリエーション的なものから、地理や日本語といった教養まで幅広く用意されています。最近新しく始めたガラスフュージング(ガラスを溶かして作品を作る)もメンバーに定着しつつあり、作業を通して楽しみを見出し、さらには就労に役立つことも期待しています。栄養教室では、一人暮らしに役立つ知識や技能を身につけるため、実際に調理してみる場面を設けるなど新しいことにもチャレンジしています。プログラム中は事故が起きないように十分配慮し、また毎日のメンバーの様子を把握して再発防止に努めています。

今後の目標としては、メンバーひとりひとりに合わせた生活へのアプローチや自立へのサポートについて他のスタッフと共に考えていきたいと思っています。まだまだ経験や知識の足りないところも多く、迷惑をお掛けすることもあると思いますが、自分自身の職種の専門性を活かしながら、他のスタッフと協力してメンバーをサポートしていきたいと思っています。



デイケア作業療法士 吉田 育代

デイケアをどのような場として捉え、運営していくのか、その中でOTとしての役割は何なのかを、メンバーと一緒に活動しながら自らに問い続けています。すべてのメンバーが自発的にサービスを求めてくるとは限らず、困っていることを自覚していない場合もあります。そんな不安や困惑を抱えた人たちが安らぎ、ほっとし、自らの生きがいや生活を取り戻す場があり、主体性の回復があってこそサービスや援助が意味を持つと考えられます。そのためには一人の生活者としての個性をまず丸ごと捉えて理解することから始まり、スタッフとメンバーといった立場に左右されない、人として安心できる関係を築くことが不可欠だと思います。デイケアでのプログラムなどの活動を介して、他者に受け入れられ、自分を受け入れることで、ほどよい人との距離感や自分のコントロール、また社会生活に必要な諸技能を身につけるなど、医療から生活まで一貫した長期的な視点での関わりや援助を行うことと、個々の状態や目的に応じて個別に対応していくことの必要性を感じています。これからも医療従事者である以前に一人の人間として共に歩んでいきたいと思っています。

デイケア PSW 西薮 史郎

日頃デイケアのメンバーと関わって感じることは、メンバーにとってデイケアは居場所であり、必要に応じて医療サービスを利用できる安らげる場ということです。しかし本来デイケアは「居場所」的存在ではなく、診療サービスの一環としての医療の場であり、長期に利用するものではないとされています。近年地域では社会資源が増えつつありますが、メンバー(特に長期間に渡って利用している方)にとって環境を変えることは難しいようです。

そのようなことを踏まえて今後のデイケアのあり方についてPSWの視点・役割も含め考えてみました。デイケアでは利用するメンバーを様々な問題を抱えながらも地域で暮らしている「一生活者」として捉えています。ゆえにデイケアでの場面だけでなく地域生活支援も視野に入れ、それぞれの生活基盤や生活様式に合わせた個別的なサービスの必要性を強く感じます。デイケアをサービスの一つとして位置付け、地域生活の支援体制を整えることでよりよい支援を提供できるのではないかと思います。いくらデイケアが充実したとしてもそれだけが地域生活の支援の全てではありません。「今ある生活」を基本として利用者のエンパワメントを引き出すためにデイケアのみならず、必要なサービスの提供やコーディネートを行っていくことがPSWの役割ではないかと思います。



活動風景(ピリヤード)



活動風景(ソフトバレーボール)

# 部門紹介 三船病院 入院管理室

看護副部長 松永 美枝子

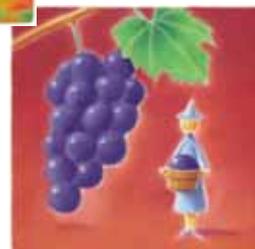
## 入院管理室の役割

当院の旧婦長室は平成16年6月10日「入院管理室」に名称変更しました。これまでの看護部門の統括としての管理業務や各種の窓口業務に加え、入院管理業務も複雑・多様化してきたことで、名称自体もそぐわなくなり変更に至りました。そこで今回、三船病院の入院管理室についてご紹介したいと思います。

入院管理室では、まず入院・退院の手続きに始まり、面会受付、ご家族からの相談窓口、年金・給付金などの各種診断書・手続きの受付、デイケアへの通所や訪問看護についての相談などを受け付けています。ご家族からの相談は、病気について、退院後の不安や金銭的な問題など様々ですが、皆様と相談し関わり合うことで微力ながらご協力できればと思っています。高齢化に伴う相談に対しては、各医療機関・施設等、外部との連絡調整を行い、安心して快適な療養生活が送れるよう、また社会復帰に向けて適切な社会的サポートが受けられるよう支援しています。さらに看護部門の統括としてカルテ管理や様々な情報の管理を行っています。より質の高い医療を提供すべく、情報の収集・管理はコンピューターシステムを取り入れ、情報の一元化やデータの共有化を図っています。今、社会は情報があふれ、社会全体の閉塞感が強まり、心のケアがますます重要になっています。それぞれが抱えている問題も病気に対する不安や生活のしづらさからくる不安などさまざま

ですが、家族や身近な人たちとの関係が影響していることが多いようです。私たちはこういった不安を理解し、受け止め、不安を少しでも和らげられるような看護を提供していきたいと思っています。また、Drや薬剤師、栄養士、作業療法士、精神保健福祉士などの各専門スタッフと協働しながら、より専門性の高いサービスの提供を目指し、日々努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、新しいスタッフの紹介をします。山崎倫子(平成16年4月より)と大藪麻栄(平成16年5月より)の2名が入職しました。これからも皆様に親しまれるスタッフになれるよう頑張りますのでよろしくご指導下さい。



## 心理士コーナー

### 体験談

心理室課長 片山 泰生

様々な機関紙とか情報紙が発行され、ホームページで公開されています。その中から必要なものを取り分けて、さて私の好きなこの事はどうなっているのだろうか…。そこから先は実際に見て聴いて感じてということになります。先日、59回目の原爆記念日を迎えられた広島・長崎の被爆者の方々の中で、あの時は語れなかったけれど、今、語り継ぎたい、あるいは絵に残しておきたいということで、取材に応じた内容を特集したテレビ番組がありました。私たち、概ね健康に過ごした者は、実際に経験的に知ることのできないもの、見失ってはいけないものがそこにはあります。情報偏重・知性重視の社会生活のあり方が招いている感情と身体の不一致・自己否定感を修正するには、こうした体験談が大きな力を発揮するに違いありません。技術としての医療は、受け手が一方的に受け、その技術を患者様がどう体験したかについてはあまり情報がありません。私たち病院人が聴く耳を持たないか、あっても何らかのしぼりで制約されている実態があるかもしれません。相手を知ることは自分を知ることと思いつつ。ever since.



## 【介護老人保健施設 福寿荘】

栄養士 松本 昭子

福寿荘の食事は栄養士・調理師・調理員・パートの総勢8名にて、栄養が過不足にならないようバランスを考えながら、普通食・きざみ食・ミキサー食の3種類を用意しています。高齢の方の食事ということで砂糖と醤油を控えた薄めの味付けにしていますが、ニーズ調査を行い今までの食習慣や嗜好を取り入れた献立で変化をつけるなどして工夫しています。中でも季節感のあるお寿司、おにぎり、天ぷらや昔ながらのお団子、おはぎなどのデザートが好評です。第4金曜日の昼食はバイキング方式で何種類ものメニューを彩りよく盛り付けて食卓に並べ、好みに応じて自分で取り分けられるようにしています。

毎日の申し送りや毎月の給食委員会で施設長(医師)、看護師、介護士等と一人ひとりの身体状況や食事状況について確認・把握すると同時に、自らもできるだけ食事の場面に立会い声かけをするなどして、きめの細かい食事が提供できるよう心がけています。これからはユニットケア、個別ケアにも積極的にに関わり、入所者のニーズに応えられるようより一層コミュニケーションを大切にしたいと考えています。

## 【三愛会コミュニティケアセンター】



生活訓練施設 花園荘 施設長 山田 智子

生活訓練施設は社会復帰施設の一つとして昭和63年の精神保健法改正時に法定化されました。“入院中心から地域生活支援へ”という政策の流れの中で、社会的入院と言われる人達の退院の受け皿の一つとして誕生しました。長期入院や精神障害のため退院先がない、退院してもすぐには単身で暮らせない、生活確立のために援助が必要であると思われる方を対象に受け入れを行い、一定期間(原則2年)生活の場と支援を提供し、その後地域社会へ送り出していくという役割があります。主には精神障害者の社会復帰の促進と地域生活支援が大きな目的となります。

花園荘は平成9年4月の設立以来、これまで47名の方が入所し34名の方が退所しています(平成16年8月6日現在)。退所された方のうち11名が単身生活へ、13名がグループホームや共同住居等の援助付き住宅へ、3名が自宅へ、その他の方が再入院へと移行しました。花園荘入所中は利用者それぞれが自分の生活課題を立て、今後地域社会で生活するための準備(住居、人間関係、金銭管理等)をしていきます。その際、担当のPSWが側面的に支援していきます。日中は買い物や作業所へ出掛けたり、地域生活支援センターや花園荘の事業に参加するなど、それぞれに過ごされます。退所された方が地域で暮らしを築き、「退所してよかった」と話されるのが、何よりの励みです。花園荘での生活は、チャレンジの場でもあります。関心のある方は、花園荘または相談室PSWまでお尋ね下さい。

### 三船病院からのお知らせ

【行事予定】

・12月25日(土) クリスマス会

【委員会】

- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・身体拘束廃止委員会(第1金曜日)
- ・医療事故防止委員会(第2水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・褥瘡対策委員会(第4水曜日)



### 編集後記

厚生労働省は平成11年の患者調査で何らかの精神障害で入院治療を受けている約33万人の中に条件が整えば退院可能な人が72,000人含まれていると発表しました。当院でもこれまで退院援助を行ってきましたが、この度地域生活支援室を相談室内に設置し、より積極的な退院援助を行っていくことになりました。長期に入院されている方の中から地域生活支援委員会で対象者を決定し、多職種によるチームで退院援助及び地域生活支援を行うとともに、関係機関と連携しながら訪問看護も実施します。また香川県精神障害者退院促進支援事業など外部事業も活用していく予定です。詳しくは、またこの三愛viewで取り上げご紹介したいと思います。

(相談室PSW)